

2024年12月23日

仙台市健康福祉局生活衛生課食品衛生係 御中

宮城県生活協同組合連合会

会長理事 冬木勝仁

住所 仙台市青葉区柏木1-2-45 フォレスト仙台 5階

電話番号 022-276-5162

### 令和7年度仙台市食品衛生監視指導計画（案）への意見

仙台市におかれましては、日頃より食の安全を守るためご尽力されていることに対し、心から敬意を表します。また、当団体の活動へのご協力、ご支援をいただき感謝申し上げます。

世界で争いが拡大して以降、小麦、食用油、肉加工品などが次々と値上げされています。これらの価格上昇には物流費や食料生産コストの高騰、異常気象による穀物価格の高騰等が大きく関係していると思われます。また、コロナ禍で起きた食生活の変化は定着するのか、消費者も食生活の変化に対応した食品の安全な管理を学ぶ必要性を感じます。

食品安全基本法では、消費者の役割も明記し、『食品の安全性の確保に関する知識と理解を深めるとともに、食品の安全性の確保に関する施策について意見を表明するように努めることによって、食品の安全性の確保に積極的な役割を果たすものとする。』とあります。行政・事業者・消費者が、それぞれの役割を果たしているのかが問われ、そのためには、リスクコミュニケーションが求められ、消費者への一層の情報提供が必須となります。

このようなことから、市民が健やかな食生活を営むための食品の安全性や信頼性の確保のために、消費者の声を盛り込んだ「計画」になるよう、策定にあたって下記の意見を提出いたします。

### 記

#### 1. P.3～ 食品等事業者による自主衛生管理の取組みに対する支援

原則として、すべての食品等事業者が HACCP に沿った衛生管理に取り組むことになってから3年が過ぎました。HACCP は食品の衛生管理にとっては大変有効な手法かと思われませんが、HACCP に取り組んでいる事業所であっても食中毒は発生しています。今一度、自主衛生管理における一般的な衛生管理の重視を指導すべきかと考えます。

日々の業務の中、衛生管理に取り組む事業者（特に新規事業者）が常に『食品衛生推進員』または『食品衛生指導員』に相談ができることを強調して欲しいと思います。

#### 2. P.4～ 製造・加工から消費までの各段階における食品の安全性確保対策の充実

- (1)・監視の対象は、施設・食材食品・従事者などになると考えられますが、施設内（施設そのもの）の管理は、外からの危害を防ぐに留まらず、事業所内の他の食品への影響も大きいと考えられるので、強調すべきかと思います。

・食中毒リスクについての情報提供や調理法の指導について、新たに指導計画に盛

り込まれましたが、これを誰に（担当者に？）行われるものなのかを明確にしてほしいと思います。各事業所の計画の作成では明記されているものと考えますが、消費者にとっては全く見えないものとなっています。

・屋外イベント等における営業許可前の事前指導を誰に行うのか、指導を受けた者が衛生責任者となり氏名が明記されるべきと考えます。責任の所在をはっきりさせることで消費者に安心を与えることができると考えます。同様にデリバリーや宅配サービスも衛生責任者がどうなっているのかを明らかにする必要があると思われま

(3)・流通食品等の監視指導において、食材・食品流通が複雑化・広域化している現状を考え、収去等の検査計画の結果や違反食品の具体的な公表、さらに、収去検査のみで十分なのかを考慮ください。

・直売所などで販売される農水産物では、表示も少なく、履歴の偽りも消費者には判断ができません。対面での販売では無いので、表示などある程度の義務を課して欲しいと思います。

・いわゆる健康食品に関しては、法律上の定義が曖昧です。他の食品と同様の扱いをして衛生管理をすることは当然ですが、消費者にその功罪を周知して欲しいと思います。特に、一般食品と異なり、特定成分の摂取量が過剰になる場合も想定されるので、定義をはっきりさせてもらいたいのですが、これは法律の問題だと思われるので、少なくとも健康食品とは・・・と詳しく広報する必要があると思います。

#### 4. P.9～ 相互理解のためのリスクコミュニケーションの推進

リスクコミュニケーションは、異なる立場の人が相互理解するためには大変有効な手段であると理解し、この手法が定着することが重要と思います。

食生活が多様化する中、食品の安全性に対する考えは非常に複雑で、立場の違いで大きく異なってくると思います。リスクコミュニケーションの場としては、幅広く参加対象を考え、意見交換会の場を複数設けることが重要と思われま

す。消費者としては、行政や事業者の考えを聞き、意見を述べることで食品の安全性確保に直結するものと考えま

リスクコミュニケーションの価値は、その中心が消費者だということを計画にも盛り込んでほしいと思います。リスクコミュニケーションの手法を参加者全員で高めていく必要があります。リスクコミュニケーションが停滞することが無いように、取組みについての検証を十分に行ってください。

また、食材・食品の製造や流通が複雑化する中、衛生管理が後手に回ることが無いように、行政間の連携や情報伝達のスピードを考慮ください。さらに、消費者に説明する場合（書面においても）は、できる限り平易な言葉でお願いします。風評被害などにより、正当な評価がされないことも出てきますので、情報の発信は丁寧にわかりやすくが必要と考えま

最後にこのようなパブリックコメントを求めていることを、多くの団体に伝えてください。

以上